

令和5年度事業報告書

自 令和5年4月1日～ 至 令和6年3月31日

運 営 事 業

(1) 第一種社会福祉事業

- ア 特別養護老人ホームかりん (定員98名)
- イ 特別養護老人ホームかりん・町田 (定員77名)

(2) 第二種社会福祉事業

- ア 老人短期入所施設 かりん (定員12名)
- イ 老人短期入所施設 かりん・町田 (定員8名)
- ウ デイサービスセンターかりん (定員35名)
- エ 認知症対応型老人共同生活介護事業所 いこいの郷 花梨・成瀬 (定員18名)
- オ 認知症対応型老人共同生活介護事業所 いこいの郷 花梨・赤羽根 (定員18名)
- カ 認知症対応型老人共同生活介護事業所 いこいの郷 花梨・原当麻 (定員18名)
- キ 認知症対応型老人共同生活介護事業所 いこいの郷 花梨・南大谷 (定員18名)
- ク 保育所 湘南まるめろ保育園
- ケ 保育所 湘南わもっか保育園

(3) 公益事業

- ア 居宅介護支援センター かりん
- イ 居宅介護支援センター かりん・町田
- ウ 地域包括支援センター 藤沢東部いきいきサポートセンター
- エ 企業主導型保育園 まるめろっじ
- オ 介護職員初任者研修企画・実施

(4) その他の事業

- ア 地域貢献事業 かりんキッズルーム

令和5年度年間事業経過について

<月毎の主な経過>

- 4月 ・人事発令(1日) ・新採用常勤職員：藤沢2名、町田2名 保育園7名(新卒0名)
- ・令和4年度中の福祉資格取得者：介護福祉士4名合格、社会福祉士2名合格、保育士1名
- ・認可保育園2園入園式(3日) ・地域貢献事業「かりんキッズルーム」21名でスタート
- ・湘南地区採用職員研修(10日) ・町田周辺地区採用職員研修(20日)
- ・4月23日法人職員永年勤続者表彰及び感謝状贈呈式を行う
- ・「にっこりかりん子ども食堂」実施(27日) 子供26名高齢者3名他15名

- 5月 ・人事発令（1日） ・菖蒲湯週間1日から5日実施 ・法人リーダー会議開催（15日）
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（19日）子供17名高齢者3名他7名
 ・令和4年度収支決算に関する監事監査実施（30日）
- 6月 ・人事発令（1日） ・令和5年度第1回理事会（3日）（事業報告、決算報告等）
 ・認可保育園2園運動会開催（17日） ・令和5年度第2回理事会（18日）
 ・法人定時評議員会開催（18日）（事業報告、決算報告等）
 ・令和5年度第2回理事会（18日）
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（23日）子供29名高齢者2名他11名
- 7月 ・人事発令（1日） ・法人リーダー会議開催（10日） ・夏期賞与支給（12日）
 ・湘南地区採用職員研修（13日） ・町田周辺地区採用職員研修（20日）
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（23日）子供28名高齢者3名他8名
- 8月 ・人事発令（1日） ・GHいこいの郷 花梨南大谷川口管理者就任
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（25日）子供32名高齢者2名他14名
- 9月 ・人事発令（1日） 法人リーダー会議（11日）
 ・「にっこりかりんこども食堂」実施（15日）子供17名高齢者2名他5名
 ・各介護事業所で敬老会を施設内部限定で実施 ・湘南地区職員交流会（29日）
- 10月 ・人事発令（1日） ・藤沢居宅介護支援センターかりん管理者海沼就任
 ・GHいこいの郷 花梨原当麻太田管理者就任 ・GHいこいの郷 花梨赤羽根小澤管理者就任
 ・町田周辺地区職員交流会（13日） ・特養かりん・町田に特定技能生2名採用
 ・藤沢リーダー職員宿泊研修開催（19～20日）
 ・「にっこりかりんこども食堂」実施（27日）子供21名高齢者2名他13名
- 11月 ・人事発令（1日） ・法人リーダー会議開催（13日）
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（17日）子供23名高齢者2名他8名
 ・令和5年度第3回理事会（25日） ・特養かりん文化祭（25日）
- 12月 ・法人令和5年度第2回評議員会（3日） ・認可保育園2園発表会（10日）
 ・企業主導型保育園まるめろっじ実地指導調査（13日） ・冬期賞与支給（15日）
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（22日）子供26名高齢者2名他14名
- 1月 ・法人リーダー会議開催（15日）
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（26日）子供27名高齢者2名他10名
- 2月 ・節分イベント実施（2日） ・東部総合職業技術校協会総会永寿会職員表彰（7日）
 ・湘南地区採用職員研修（15日）
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（26日）子供21名高齢者3名他9名
 ・西部総合職業技術校協会総会永寿会職員表彰（27日）
- 3月 ・雛祭りイベント（3日） ・法人リーダー会議開催（11日）
 ・認可保育園2園卒園式（16日） ・令和5年度第4回理事会（16日）
 ・令和5年度法人第3回評議員会（24日）
 ・「にっこりかりん子ども食堂」実施（22日）子供36名高齢者3名10名

<令和5年度の総括への影響を与えた社会背景>

～世界の中では～

- ・世界で危惧している懸案事項はロシアによるウクライナでの大規模な戦闘行為やイスラエル軍のパレスチナガザ地区への壊滅的戦闘行為であり、世界は心を痛め、世界的な緊張が高まり、政治や経済、貿易等に大きな衝撃を与えている。
- ・令和2年2月から拡散した新型コロナウイルスは感染症法上第5類に移行したが、社会的影響は生命や医療、経済へ波紋をもたらし、社会生活も大きく変え、生活スタイルも変わってしまった。

～日本の全国的状況は～

- ・日本の産業構造は、依然として大企業と投資集団や金融資産を有する階層に依拠しつつあり、また、第5類となったコロナ感染症は依然として対策を行ないつつ、社会交流も復活しつつ有り、イベントや海外旅行者が増加して、貿易や国際観光も日の目を見始めた。
- ・また、少子高齢化は一段と進む中で、児童生徒数の減少の一途であり、子供を育て易い社会環境の整備が急務とされ、政府もこども家庭庁を内閣府内に設けるようになった。
- ・就業年齢層の減少化の中、外国人材の各産業への流入が自然の流れになり、増大している。

～法人を取り巻く地域環境～

- ・コロナ感染症の進行の中で、面会や職場の感染対策等が困難を極めたが、規制を緩和して過ごしやすく、御家族との交流も回復させた。
- ・人材難の中、少しずつ補強や研修を充実させて行く中、成長する法人の将来に向けて、ベトナムからのEPA人材の受け入れを始めてから、令和5年度も2名の人材を確保し、ベトナムやインドネシア、ミャンマーの特定技能生も各介護事業所に受入れするようになった。今後も多様な人材を受け入れていく必要が迫られている。
- ・働き方改革の提唱の中で、労働環境を向上させることも求められてきた。上述した関係で錯綜の事態となっているが、労働環境の諸規則を改訂し、働きやすい環境整備に努めている。
- ・法人を巡る人材採用環境は非常に厳しく、若い層や能力のある就業者が少ない。今後に向けて、外国人材や高齢の人材も活用していく方向性は一段と進む。

<全体的総括内容について>

- ・法人全体としては、令和5年度では、11拠点で16事業を運営、展開する規模となり、ユニット型特養やGH事業、保育園、地域包括、企業主導型保育園等との相互連携や協力の中で、新たな発展・飛躍を期して、各施設全体で、理念に基づき、堅実で、効率的な人事配置と今後の展望も広げるために検討や実行に向け努力をしてきた。
- ・職員の力と、関係者の協力、支援の輪を背景に、「あたたか、安心、いきいき」の理念のもと、コロナ禍が収まりつつある中、感染防除に努め、コロナ禍前のレベルまでには至らなかったが、充実した日常生活の提供と、各事業間の連携で相乗効果を生み出し、法人の未来に向け堅実な道を作れた。

- 1 11拠点で事業を展開する中で、法人組織の点検と構築を行いながら、高齢者が安心して暮らせ、乳幼児が安心して豊かに育てられる事業目的を追求し、事業展開を図った。

保育園事業では各園ほぼ定員に達し、周辺環境や設備の特徴を活かし、保育内容の充実を図った。今後も3つの園で有効活用を進める。

更に企業主導型保育園「まるめろっじ」も地域関係者の需要に答え、利用促進や法人職員確保のため、入職する職員の利便性に貢献している。

- 2 各事業では収益向上に向け、加算取得や営業活動を強化し、人事処遇や組織管理等ソフト面では、人事評価制度を充実させ、運用を着実に推進し、研修体制の充実強化も進めた。
- 3 社会の基本である福祉分野へは様々な企業が子会社を設立し進出しており、社会福祉法人としても確りと運営するため、厳しい現状にも対応可能となるようハードとソフト両面から検証して、ホームページの充実や関係先との連携で打開策を進めた。
- 4 特に介護では、令和5年度も介護人材の雇用に苦心する展開になり、研修や面談等できめ細かい配慮を進め、対策を進めた。法人の初任者研修の利用者を勧誘しつつ、該当講座の講師に職員がなることで意欲向上に貢献した。また、施設内の研修発表会や外部研修への参加を通じて技能・技術の意欲喚起に努めた。
- 5 事業拡大に伴い、各事業所への巡回等を通じて、財務処理、経理処理等の整備、確立に取り組んだ。法人本部機能を堅実なものとし、各事業所間の連携と協調の体制作りにも努めた。また、GHの医療支援体制の課題解決に取り組み、看護師の巡回訪問で安心して暮らせる生活を支えた。
- 6 高度情報社会での情報伝達手段として、IT機能を使いこなすようICT化の推進として介護記録のネットワーク化、ソフト更新を進め、また、介護機器の導入を図り、労力削減や利便性の充実を図った。
- 7 保育園事業は開園から9年が経過し、0歳児から利用した園児も含めて、本年度は2園で40名の卒園児が誕生した。周辺環境を活かし特養、グループホームとの交流はコロナ禍で最近の三年間は出来なかったが、復活させることが出来、自然とのふれあいや畑での野菜栽培等を行い、感覚豊かな子供達として成長を進められた。今後も特養やGH等との老保交流でプラス・プラスの関係を模索する。
- 8 「湘南わもっか保育園」隣接場所での地域貢献事業「かりんキッズルーム」は利用する児童が次第に増加し、就労保護者の期待に応じて順調に推移した。
- 9 法人の運営する地域包括支援センター事業や、短期入所生活介護事業、通所介護事業等の重層的運営の特性や連携を活かし、引き続き緊急対応等についてセーフティネットの役割を果たした。
- 10 法人職員が約300名を超え、各事業所内での退職防止と働きやすい職場環境のため、親睦やコミュニケーションの円滑化を図る必要があり、法人の福利厚生制度の充実と研修支援体制の強化により、組織の纏まりに供し、また湘南と町田・相模原の2ヶ所で直接の親睦会の場所を設け、交流を行なった。